

朋翠会

環境教育 REPORT

2018

Vol.7

卒業生と在校生の架け橋

山本和人学長からの言葉 ①

1年生夏の研修会・2年生フィールド

ワーク・3年生フィールドワークII ②

寺田屋本家24代目当主寺田優様への

インタビュー ③

学科シンポジウム・学科企画実験 ④

先輩インタビュー ⑤

ハワイ研修 ⑥

インターンシップ ⑦

時事問題 ⑧

環境教育への期待

私の所属する人文学部教育福祉学科では、文学部心理教育学科の時から、社会・公民の教員免許を取得できます。社会科学の世界では知られた当時の先生が、「これからは環境教育の時代だ」といわれ、学科の専門科目に「環境教育論」を選択科目として加えていました。数ある



学長

やまもと かずひと

山本 和人

サステイナブル社会の構築に貢献されることを期待しています

教員養成課程を持つ大学の中でも、かなり早かったと思います。

昭和40年代の日本は、大気汚染、水質汚濁、自然破壊、騒音や振動等々、高度経済成長を続ける中で顕在化し深刻化した公害であふれていました。マスコミに登場した言葉は、「日本は公害実験国か」というもので、産業・企業型の公害に加え、大量消費型や都市型の公害など、様々な要因による公害が見られました。人々に重篤な被害を与え、裁判となり、解決まで長い時間を要するものもありましたが、日本から消えても諸外国に移動しただけの公害もあります。

環境は、失って初めて気づきます。また、人間と環境の関係は「二体不二」ですが、人間も柔軟性を持っており、少々の環境変化では、問題なく生活ができます。

環境開発と環境保護の間で、生物多様性を確保しながら、私たちが安全で豊かな生活を維持するためには、環境を守っていく主体である人間の教育が大切だと思います。人間と社会・環境の在り方を深く考え、科学についての理解を深め、様々な立場で、サステイナブル社会の構築に貢献されることを期待しています。



1年生 夏の研修会

私たち環境教育学科1年生は、夏休みが明ける直前の9月初頭に千葉県立君津亀山少年自然の家にて、2日間のサマーセミナーに参加しました。入学から約5ヶ月が経ち、夏休み中でしたが殆どの生徒が参加しました。海ほたるパーキングエリアを通り、房総半島の中央に位置する里山にある自然の家へと向かいました。施設の方に自然の家でのルールとベットメイキングなどを教えてもらった後、井上先生に水質検査キットの使い方等の説明を受けました。夕食後のレクリエーションでは、キャンプファイヤーの炎を囲みながら各班で準備したパフォーマンスを披露し合い、とても盛り上がりました。初日の夜は天候が悪かったため、残念ながら夜空の天体観測はできませんでしたが、今まで話したことなかったクラスメイトと関わることもでき、学科皆で仲を深められた貴重な時間となりました。

2日目は朝早くから竜頭の滝へ出発しました。運悪く、朝から雨が降っていましたが、約2キロの川沿いを慎重に歩きながら各班で、上流・中流・下流の数ヶ所の水を汲み取り、一般的な水質の目安10項目のうちの3項目の、亜硝酸窒素および硝酸窒素、pH、cod（有機物）の数値を測る水質検査を行いました。

上流に行くにつれて全体的に透明度も数値も良くなり、自分たちの目で反応を確認することができました。上流に向かって歩く途中、白鷺やカビの胞子に負けた蟬、大量のアメンボ、ヒルなど都内ではほとんど見ることのできない生物にあうことができてとても新鮮

な体験でした。

最後には、木更津にあるホテル三日月にて千葉県の食材などを使ったバイキングを堪能しました。

今回のサマーセミナーは、2日間という短い時間でしたが、緑豊かな自然の中で私達が普段目にするものがない生き物や自然とふれあい、学科の皆と充実した貴重な時間を過ごすことができました。

（担当/安田）



2年生 フィールドワークⅠ

2年生のフィールドワークでは、神奈川県相模原市で通年3回の不耕起栽培による稲作を体験しました。

不耕起栽培とは、土を耕さずに種や苗を植える農法のことです。5月の下旬に第1回目の稲を植える作業を行いました。1つずつ深く溝を作り、一定の間隔を開けて苗を植えていくのですが、耕さないことで土が硬いためかなりの時間

がかかりました。手作業による田植えが大変だということを改めて実感しました。

6月の下旬には第2回目の草取りの作業を行いました。草のほとんどは稲と同じくらいの高さなので、間違えないよう注意をしながら作業を進めました。また抜けにくい草が多く、みんなと協力して行うことが多々ありました。この時期にきちんと草取りをすることで稲がしっかり育つといえます。

最後に、10月の中旬に第3回目の稲刈りの作業を行いました。当日は雨が降っており足場が悪い中での作業となりましたが、リレー方式で稲を刈り取って行き、スムーズに進めることができました。紐で束ねた稲を順に干していき、稲刈りの作業を終えました。

今回のフィールドワークでは、稲作を学科のみんなと一から行うという貴重な体験ができ、お米を作る大変さを実感することができました。お米以外にも、日頃から食べている野菜など、食の大切さに改めて気づかされました。

（担当/大森）



3年生 フィールドワークⅡ

3年生のフィールドワークでは、夏休み板橋区にあるエコポリスセンターで講義を受け、学生スタッフとしてエコスクールに来る子供たちにそれぞれが担当するエコな仕事を教えるための準備をし、最終日にはエコスクールのスタッフとして参加しました。

エコスクールに向けての準備では、自分たちの担当する工作内容に関連したエコ話を考え、パワーポイントにまとめました。エコスクールに来る子供は小学生が多く、自分の班が担当する仕事では小学校低学年が多かったため、パワーポイントの文字にルビを振り、クイズを多くして飽きないで最後まで聞いてもらえるよう工夫しました。また、担当する工作内容を確認して、ハサミやカッターで危ないところはないか、グルーガンなどの難しいところは子供たちではなく学生スタッフがやるなど話し合い、エコスクールに向けて子供視点で考えながら準備を進めることができました。

最終日のエコスクール当日には、学生スタッフが1カ所にかたまらないようにし、子供がハサミを使うときは危なくないかよく見ながら作業を進めました。仕事が終わったときには、子供たちが「楽しかった」「またやりたい」と言ってくれたので嬉しかったです。

普段子供たちにスタッフとして関わる機会がなかったため、うまく伝わるかどうか、楽しんでもらえるかどうか不安でしたが、エコポリスセンターの方からのアドバイスもあり、小学生がどの程度の内容がわかるのかなどを知ることができ、対象に合わせてパワーポイントを作ったり言葉遣いを変えたりすることの大切さについて学ぶことができました。

（担当/山田）

寺田本家

「自然の原点に戻って酒造りをしたい」

江戸時代から300年以上続く日本酒の蔵元。「自然の原点に戻って酒造りをしたい」という考えから、現在は無農薬・無添加そして昔ながらの生酏造りで日本酒を製造しています。近年寺田本家主催の酒蔵祭りが話題になっています。今回はそんな酒蔵の24代目当主寺田優様にインタビューをさせていただきました。



寺田本家 24代目当主
寺田 優様

— 無農薬・無添加にこだわるところになったきっかけや環境に関して活動等をお聞かせください

きっかけは先代が病気になり、自然に発酵することに注目するようになってからです。また、無農薬にすることで安心安全なお酒を提供できますし、環境面でも他の農薬を使用した田んぼにはいない生物が棲むようになり、米造りをしながら環境作りもしているような感覚になります。また、世界的に見て日本は有機農業の面では後進国であり、農薬を使った大規模農業ではなく、農薬を使わない安心安全な良品質なものを生産していく農家の道を切り開いていきたいです。

— 神崎町は発酵の町と言われているが、酒蔵から町おこしをしたのはいつからですか？

地域おこしを始めたのは10年前からでして、最初はみそづくりや小さなマーケットを開き、その沿線上で小規模な酒蔵祭りを開催

していました。しかし、酒蔵祭り3回目くらいで行政の方に興味を兼ねて大規模なお祭りを開催することになりました。自分たちだけでは限りがありました。行政と町全体での協力で今の様な町の姿ができました。

— 普段から私達が環境のためにできるようなことがありましたら教えてください

環境のためと考えるのではなく、まずは自分の体のことを考えてください。自分の体の中にいる微生物を大切にすると意識を持つことです。そこからどのような食べ物を食べるか、どのような食材を買うか、という消費行動を意識的に変えていくと、それを作っている企業は必然的に環境に配慮した企業が多いため、やはり自分の体を一番に考えると結果的にその先には良い環境があると考えています。人間の体にはたくさん微生物が棲んでいるので、微生物のことと自分の体のことを少し意識してみてください。

— ありがとうございます

環境教育学科の学生にとって、必修の授業でも微生物を扱うため、更に身近に環境を考えるきっかけができました。

(取材担当/山本)

寺田様のご厚意で
酒蔵の見学をさせていただきました



学科シンポジウム

今年度は平成29年7月23日(日)、メトロポリタンホテル池袋にて環境教育の学科シンポジウムが行われました。今回のシンポジウムでは、10年前に本校を定年退職された秋山堯(あきやまたかし)先生が、瑞宝中級章(ずいほうちゅうじゅうしょう)を受章されたので、その祝賀会という形で開かれました。

秋山堯先生は無機工業化学分野において、主にリン酸塩を中心に化学肥料の製造、品質および貯蔵性の改善ならびに産業廃棄物の利用について研究され、多大な貢献をされました。

その功績をくわしく書きます。

化学肥料に関する研究では、製造や貯蔵の際、原料塩類間にきわめて複雑な反応が数多く進行することを発見し、品質に大きな影響を与えることを解明されました。

産業廃棄物に関する研究では、鉍滓(こうさい)についてです。鉄鋼や各種金属の製造の際に排出する多量の産業廃棄物である鉍滓は従来、主として道路の路盤材として利用されてきたのですが、これらの鉍滓中の鉍物をX線解析で定量的に明らか

にし、それらの成果として土壌改良材や肥料として有効なものがあると発見しました。

他にも日本ではリン資源を100%輸入に頼っていることから、未利用資源を活用するためアメリカ、ブラジル、中国を訪れ、低品位や低品質のリン鉱石を調査し、これらの活用法を明らかにされました。

祝賀会には秋山先生のゼミ生のみならず、環境情報学科の卒業生の皆さんが大勢参加されました。

(担当/狩野)



学科企画実験

10月28日(土)29日(日)に開催された第57回緑苑祭の学科企画実験で、環境教育学科では「おもしろ科学実験」が4号館入り口、3階環境化学実験室にてそれぞれ行われました。

今年度は、真っ黒スライム作り・科学マジック・シャボン玉&お水にお絵かき・食品添加物調べ・ブロッコリーのDNAを取り出そうの、5つもの盛りだくさんの実験が行われました。実験プログラムごとに開催時間が異なるため、どの時間帯にいらしても1つの実験には参加いただけるように設定されていました。

今年度はお子様をターゲットとして企画されたそうで、当日は

雨もぱらつく中でしたが、家族連れからたくさんの方が足を運んでくださいました。どの実験も15~35分で参加でき簡単な内容のプログラムでしたので、小さなお子様も楽しめる内容でした。持ち帰ることのできる資料も準備されており、自宅に帰ってから内容を見返すことのできるよう工夫されていました。すべての実験が身近なものを使用した実験であったため、お越しいただいた皆様に気軽に楽しんでいただけました。

(担当/根津)



▲シャボン玉を楽しむ参加者



▲シャボン玉を楽しむ参加者



▲当日の案内看板



▲学生の説明を聞く参加者



▲当日の概要



▲科学実験中の様子

先輩インタビュー

現場の第一線で活躍されている環境教育学科の先輩方から貴重なコメントを頂きました!!

「日々楽しく仕事をしています」

平成28年度卒

よしぞわ はるか
吉澤 遥さん

日本証券テクノロジー 勤務
運用サービス本部 運用サービス部
運用サービス設計課

— 今なされているお仕事の内容について教えてください

運用SEと呼ばれる職業についています。一般的にイメージされるSEは、プログラミングでアプリケーション等の開発している人をイメージすると思いますが、運用SEは、開発をするのではなく、稼働しているシステムや、開発予定のシステムを対象として業務をします。業務としては、こういった場合にシステムとして異常になるのか、警告になるのか、復旧手段やバックアップ方法を要件定義し、その内容から運用設計書を起します。その後、ユーザと要件定義した内容に基づいて、死活監視、リソース監視、プロセス監視、ジョブ運用等のシステム監視を実装します。監視はJPERと呼ばれる日立の製品を使って実装します。

先に挙げた内容は運用SEとしての全量であり、大抵はシステムの監視導入の際に発生する費用の見積りや、監視の実装業務を担当および実施しています。— 今のお仕事のやりがいや、この仕事に就いて良かったこと、また反対に大変なことはありますか？

アプリ本部や基盤本部に配属された同期はあまりユーザとやり取りするこ

とはないのですが、運用本部では、若手のうちからユーザとやり取りをする機会があります。いろいろな人と関わる機会があるので、日々楽しく仕事をしています。

— 反対に、自分の知識不足等で相手に内容を上手く伝えられない事象が発生する時はとても苦労します。

— 環境教育学科で学んで良かったことはありますか？

学生時代はプログラミングの授業を積極的に受講していました。配属前の研修はプログラミングがメインとなるため、授業でプログラミングについて勉強していたことであまり抵抗感なく研修に取り込めました。

— 授業や課外活動への取り組み方に関して思うことはありますか？

私は大学入学当初から情報系に興味を持っていました。入学してから情報系の授業を積極的に受講していたものの、学べる分野に限りがありました。もっと多様に学べることであればいいなと思います。

— 最後に学生時代にやって良かった方が良いと思われれること、また就職活動についてのアドバイスがあればお願いします

バイトやサークルはやって良かった方がよいと思います。その中で学生時代自分がどういったことに力を入れてきたのか、その内容を纏めるかつ、話すことが

できれば就活の強みとすることができず。ただし、バイトやサークルに力を入れるあまり授業を疎かにしないようきちんと両立すること。それがこの先も

「積極的に挑戦し続けて欲しい」



平成28年度卒
なかむら むか な
中村 夢奏さん
ディップ株式会社 勤務
LIMEX事業部

— 今なされているお仕事の内容について教えてください

バイトルという求人サイトを運営している会社です。新規プロジェクトでもある「LIMEX」という環境にとてもいい素材を広めています。

木と水を全く使わず石灰石から作られているため、100年後の私たちの未来を変えるお仕事をしております。現在は日本で広め、将来的には世界で広めて行きます。

— 環境教育学科で学んで良かったことは何ですか？

我々の住んでいる世界の環境面でのような問題が起きてくるのか、何をしなければならぬかを考えるきっかけをいただけ良かったと思います。

今後長い目で見た時に、必ず環境に

役に立つと思います。

— ありがとうございます

(取材担当/鈴木)

ついて学んで良かったと思う日が来ると思っています。日本だけで見るのではなく、世界的に見ると水不足も森林伐採もとても深刻な問題となっております。人ごとではなく、自分のことと捉えることが一番大切です。

— 授業や課外活動への取り組みに関して思うことはありますか？

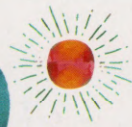
課外活動は前向きに取り組んで欲しいと思います。なぜなら、自分を変えるチャンスだからです。

「できる」方法を探して「行動」することです。見る角度や光の加減によって見え方が違い、あらゆる視点から物事を捉えることによって、的確な答えを導き出すことができると思っています。

— ありがとうございます

(取材担当/山田)

HAWAII 研修記



「自然の美しさを自分の目で見ること、環境保全に対する意識が変わりました。」



平成29年2月5日〜19日までの15日間、学生11名と引率の吉原先生、井上先生と共にハワイにて環境保全・英語研修が実施されました。

内容は、本校の学生のみのクラスで英語授業、またアクティビティとして、ハワイ島の自然環境やその保全について学びに出かけるというものでした。実際の現場を見ることによって、環境に対する理解が深まりました。そして現地の人やハワイ大学の学生との交流を通して、外国語によるコミュニケーションの楽しさを学びました。

今回は3年の鈴木彩夏さんにインタビュー、そして私自身研修について振り返ってみました。

「ハワイ研修を知ったきっかけは何ですか？」

前年度に行われたオーストラリア研修が楽しそうに興味がありました。今年も海外研修が行われるということは知っていましたが、その時はまだ行くつもりではありませんでした。ハワイ研修の説明会の日、先生に「時間があったら聞いていかないか」と偶然声をかけられ、話を聞きに行ったのがきっかけです。

「今回の研修に参加しようと思った理由はありますか？」

もともと海外旅行が好きで、語学力を上げたいと思っていました。現地の人やハワイの大学生との交流を通して英語でコミュニケーションできるのはいい機会だと思い、参加を決めました。1年生の時に西表島の研修に参加した経験があり、このようなプログラムは自分ではできないことだと感じ、当時のことも思い出し参加に至りました。また学生生活最

後の思い出にもなると思い、行くことを決めました。

「環境保全研修の中で、特に興味を持ったことを教えてください」

研修中、英語の授業の最後に一人ひとりプレゼンをしました。そのプレゼンのテーマにもしたサンゴについて興味を持ちました。もともと海が好きなので、これから先海をきれいに保つためにサンゴの力が必要で、その保全は大切なのだと思いました。

他にも、ミツバチについて学んで興味を持ちました。現在世界中のミツバチは農薬のせいで死んでしまっていること、また農薬が危険だということを知りました。私も環境教育学科にいるので、少しでも貢献し環境保全に協力したいと思いました。このことをきっかけに今大学では化粧品と農業を絡めた、オーガニックコスメについて研究しています。

「研修に参加してよかったことは何ですか？」

旅行だけではできないことをたくさん体験できました。2週間、毎日充実していても楽しく、本当に行ってよかったと思っています。

ありがとうございました



私にとって今回のハワイ研修が初めての海外でした。本校に入ってから先生に今年から始まる研修があると聞き、海外に行けるチャンスだと思いました。説明会に行ってみると、環境保全の学習を重視したプログラムで、英語でのコミュニケーションを学ぶだけでなく、実際にハワイ島のいろいろな所をまわるというものでした。ハワイの自然を間近に見られることがとても魅力的だと思いました。またすべての期間2人1部屋の寮に滞在し、食事は朝夕の2食付きというところも私にとって嬉しい条件でした。家族に相談したところ快く賛成してくれて、私の研修の参加が決まりました。

「研修中は毎日充実していました」

1日の流れは、まず午前中に3時間の英語の授業、そのあと各自大学内で昼食を済ませ、午後はハワイの環境について学ぶため、アクティビティとして外に出かけました。授業では、ハワイ島の歴史やハワイ語、またその日のアクティビティで行くところの説明など教えていただきました。また最後の授業で一人ひとりプレゼンをしました。テーマは環境や研修中にまわったところについてなど、それぞれでした。私は酸性雨についてプレゼンをしました。日本とハワイの環境条件を比較しながら調べました。プレゼンは緊張しましたが、ハワイ大学の学生や先生方が見に来てくれて、英語で伝えることの難しさを味わい

ながらも、終わった後は達成感でいっぱいでした。アクティビティではマウナケア山での星観測やマリンサイエンスで海に行きました。中でも、ナショナルパークで火山から溶岩が流れているのを間近で見ただけでも印象的で感動しました。他に買い物やフラダンス、レイ作りなどもあって、勉強に縛られる15日間ではなく、学びながらハワイ島を楽しむことができました。

実際に現地での自然の美しさを自分の目で見ること、環境保全に対する意識が変わりました。また美しさを保つべく様々な取り組みをしている反面、多くの問題を抱えていることも知りました。私も貢献できるようなこと、これからも環境保全について学んでいきたいです。機会があったら、またハワイに行きたいです。

(取材担当/小柳)



わたしたち

インターンシップ に行ってきました



「働く」ということが一気に身近に感じられました



いわた きょうこ
3年 岩田 京子さん
株式会社スクールパートナーズ

インターンシップに参加した理由を教えてください

大学3年になり就職活動を考えるにあたり、会社や社会の仕組みについて知らないことがたくさんあると思ったので、視野を広げるために参加しました。

インターンシップに参加する前に準備をしたことはありましたか？

インターンシップの内容に企業説明も含まれていたため、とくに企業について調べるといことはしませんでした。何を目標にして参加するかは事前に考えていました。

インターンシップで体験した内容を教えてください

高校生新聞を発刊している企業だったので、編集部と営業部・事業部に各1週間ずつ参加しました。編集部では、記事の要約や新高校生に向けたネット記事の企画。営業部・事業部では、高生様の様々なコンテストに関わる事務、自分史新聞の作成などを担当しました。お昼は社員の方と一緒に会話をして過ごしたりしま

した。

インターンシップに参加して学んだこと、感じたことはありますか？

企業の1日の動き、人の動きなど身をもって体験できたことが一番の収穫でした。若手の方が電話に出て上司に繋ぐ、各部署の連携、社長との会議など言葉では理解していても実際に見て、その流れに自分も加わったことで、社会で「働く」ということが一気に身近に感じられました。

インターンシップに参加して、成長した点やこれからについて教えてください

私は今回のインターンシップで自分の弱点を知ること、今このうちを目標にしていきました。今のうちに自分の弱点を知っておけば、社会に出る前に改善する努力ができるかと考えたからです。そして、実際に活動を経て弱点を知ることができたとともに、自分が働きたいところについても具体的かつ明確に見えてきました。これは、このインターンシップに参加して最もよかったと思えたことです。これからは自分がやりたい仕事に就くための努力を継続していきたいと思っています。

ありがとうございました

(取材担当/山田)

自分のことを見つめ直すことができました



いしだ ちひろ
3年 石田 千尋さん
株式会社エスクリ

インターンシップに参加した理由を教えてください

元々就職をとっけていて、将来的に何か人に直接関わる仕事に就きたいと考えインターンシップを探していました。そんなときに学校内で開催されていたセミナーに参加して、ブライダル業界の募集があることを知り、興味を持ったので参加しました。

インターンシップに参加する前に準備をしたことはありましたか？

インターンシップ先のホームページを見て、その企業がどんな事業を展開しているのか調べたり、同業他社と比較して強みを調べたり業界の今後の動向を調べました。

インターンシップで体験した内容を教えてください

インターンシップには5日間参加しました。入り口で待機し、挙式を挙げる親族やご友人の方々のご案内や受付、クローカーでの荷物の受け取り、ウエルカムドリンクの準備、親族の方が待つ控え室の準備を行いました。

インターンシップに参加して

もっとこうしたら良かったと感じたことはありますか？

1日に何組ものお客様が挙式をあげるため1日の段取りが分単位で決まっており、スムーズに動かなくてはなりません。もっとテキパキと動ければ良かったなと思います。また、常に笑顔でいることを求められていたため、忙しい中でももっと心に余裕を持ち、笑顔で対応できればよかったです。

インターンシップに参加して学んだこと、感じたことはありますか？

実際に参加して社員の方々の現場での情報を聞くことができたのは非常によかったと思います。華やかに見えるような仕事の裏側では、たくさんの裏方の支えがあつて成り立っているのだと改めて感じました。また、インターンシップを通して自分の得意なこと、苦手なことを見つめ直すことができたと思います。

インターンシップに参加して、成長した点やこれからについて教えてください

サービス業の中でもマナーが厳しい業界なので、インターンシップに参加する前よりも意識するようになりました。自分が数年後にどのように働いていたか、という想像もできる良い機会だったと思います。

ありがとうございました

(取材担当/山田)



時事問題



築地豊洲問題

築地市場は東京都中央区築地にある公設の卸売市場で、都内に11カ所ある東京都中央卸売市場のひとつです。1935年、日本橋の魚市場と京橋の青物市場が移転して開場し、特に水産物の取り扱い規模は世界最大級で、築地市場でついた値段が全国の他の市場での取引の参考価格になると言われています。昨今、そんな日本市場の中心とも言える築地市場が豊洲へ移転すると話題になりました。

開場から80年以上経つ築地市場は、場内の老朽化や狭隘化が著しくなりました。そして現在地での再整備を進めましたが、費用や営業活動への影響など多くの問題が発生し、都は2001年に江東区豊洲地区の東京ガス工場跡地に移転することを決定しました。

そのような中2008年に予定地である豊洲市場の土壤調査をしたところ、土壌から環境基準をはるかに上回る量のベンゼンやシアン化合物が検出され問題となりました。予定地はもともと埋め立て地であり、東京ガスが都市ガスを製造供給していました。その製造

過程において、ベンゼンやシアン化合物、ヒ素、六価クロムなどが地下へ流れ出し、土壌を汚染していたと考えられます。発がん性のあるベンゼンや六価クロムが検出された場所で、食材を扱うことはできないと市場で働く方の多くの意見もあり問題となりました。

これを受けて都は、762億円を投じて土壤汚染対策を実施しました。しかし2016年8月、に小池百合子都知事は、同年11月上旬に開場する予定であった豊洲新市場の移転の延期を発表しました。延期の理由としては安全性への懸念、巨額かつ不透明な費用の増大、情報公開の不足が挙げられました。

移転を延期した小池都知事は2017年6月20日「築地は守る、豊洲は活かす」といった基本方針を掲げました。2020年には東京オリンピックが開催予定であり、観光客が多く訪れると予想されます。2020年にはどのような形であれ、お客様をおもてなしていただける市場があることを期待します。

(担当/鈴木・根津)



▲築地場外



▲築地場内入口



▲豊洲市場(移転予定場所)



キャンパス内のイチョウの木
撮影：山田 美優

会員情報・連絡

「環境教育REPORT」は年刊です。
来年の春にまた皆さまの元へお届けいたします。
◎連絡先が変更になられた方は、必ず下記までお知らせください。

☆編集委員募集☆
「環境教育REPORT」の編集・発行に参加してみませんか。
編集委員を担当して下さる方を募集しています。
また、環境情報学科・環境教育学科を卒業された先輩方、環境教育の現場で現役の皆さま、ご参加をお待ちしております。
担当して下さるという方は下記までご連絡をお願いします。

朋翠会連絡先

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 生活環境学研究室・吉原 富子
TEL: 03-3961-4286
E-mail: yosihara@tokyo-kasei.ac.jp

●編集後記● 「環境教育REPORT」Vol.7をお読みいただきありがとうございました。今年はメンバーが大きく入れ替わったことで、今までにはない新しい仕上がりになっていると思います。取材にご協力いただきました皆様、ご指導・ご協力くださいました当大学の吉原富子先生に感謝いたします。また、お会いしましょう。来年度の発行もお楽しみに！

●編集委員● 前列(左から)：山田 美優(3年) 山本 ゆり恵(3年)
安田 京加(1年) 狩野 朱音(1年)
後列(左から)：鈴木 琴巳(2年) 小柳 佳奈子(2年)
根津 美佐(2年) 大森 恵理奈(2年)

